

江戸から令和、未来の家族へ 長谷川家ファミリーヒストリー

著者は神田鍛冶町で生まれ育った長谷川様ご兄弟4人。江戸時代末期に錦絵の版元として活躍した長谷川常次郎の子孫です。

ルーツ探訪のきっかけは、1985年、上野の森美術館の「大英博物館所蔵浮世絵名作展」に、版元・長谷川常次郎の浮世絵が出品されるとの連絡を受けたことから。「絵草紙屋がいたと聞いていたのですが、歴史に名を残すほどとは知らず、誇らしく思いました」とご長男の長谷川善三様。本書の1章には、そこから調べ続けてこられた祖先の足跡が「神田鍛冶町物語」としてまとめられています。2章には両親の教えと思い出を語る「家族が歩んだ道」、3章には神田の暮らしを思い起こす「兄弟座談会」を、そして巻末には、常次郎の作品と父・栄次郎の作品を掲載しました。ちなみに、タイトル『仲良きことは日々尊く』は、お母さまのことが「兄弟仲良く」をヒントにしてつけたもの。本書はその教え通りに、兄弟が力を合わせてつくり上げました。



著者：長谷川善三、久栄、和正、貴一
書名：『仲良きことは日々尊く』

○仕様
サイズ：B5変形 (172mm×237mm)、168ページ
印刷：オフセット印刷
加工：箔押し (表紙タイトル)
発行：2020年3月10日



お客様の声 VOICE

我が家のルーツを調べ、祖先の生きた証と兄弟の生きた証を残すことが出来ました！

長谷川兄弟 代表 長男 善三さま

この本を作ることにしたきっかけはNHKの番組「ファミリーヒストリー」。1985年から、長谷川家のルーツを探りはじめ、その過程で先祖の残した浮世絵や錦絵などから新しい発見があり、親戚や友人との交流も深まりました。しかし生まれ育った神田も時代とともに変化し、街の景色も懐かしい下町の雰囲気もなくなっていて……。そこで、この番組のように長谷川家の足跡を次の世代の子供や孫たちに伝えることが大事と考え、一冊の本にまとめました。「装丁も綺麗！」「読みやすく一気に読んだ！」「ほのぼのとした気分になった！」などの沢山の感想をいただき、大満足の仕上がりになりました。ことごと舎さんの丁寧な本づくりのお蔭です。本当にありがとうございました。



「印刷・製本」のご依頼もお引き受けします

印刷・製本のご要望もお任せください！ より良い本になるように、本としての「約束事」が守られているかのチェックをし、用紙選びや製本の仕様など、お客様の思いをカタチにする本づくりをお手伝いします。

このコーナーでは、ことごと舎が主に印刷・製本をお手伝いさせていただいた本をご紹介します。

マニアックな世界観に脱帽！

「役に立たないきのこ」はご夫婦のユニット名で、きのこの魅力がぎゅっと詰まった本。ご主人が「きのこの写真」を撮り、奥様が「きのこの編みぐるみ」づくりを担当。1つのきのこを写真(右ページ)と編みぐるみ(左ページ)で紹介するという、ユニーク極まりない本です。



著者：役に立たないきのこ
書名：『役に立たないきのこの本』

○仕様
サイズ：A5判 132ページ
印刷：デジタル印刷
製本：ソフトカバー
小口折り製本
発行：2020年6月30日
価格：1,500円+税

“環境に優しい自社工場”で印刷しています

本工場は、環境に配慮したGP認定工場です。



2019年、日本の印刷業界団体の連合会である一般社団法人日本印刷産業連合会から「印刷産業環境優良工場奨励賞」を受賞。併せて環境に優しい印刷物を普及したことで3年連続の「GPマーク普及準大賞」をいただきました。

*全国の印刷事業所数は約1万8千、その内、グリーンプリンティング(GP)工場として認定されているのは400工場(社)にとどまります。



本づくりに興味のある皆様には「ことごとBOX」を差し上げます。



①ことごと舎のことごと舎の思い



②本づくりのことごと舎の本づくりの基本的な流れと、本の名称やサイズなど基礎知識



③かみ+くみ帖
5種類の用紙と組版を具体的に示した「紙と組の見本帳」

「ことごとBOX」のご請求方法

ことごと舎のWEBサイトの「ことごとBOX」にあるご請求フォームからお申込みください。ご覧になれない方は、フリーダイヤル0800-800-7651から、お気軽にお問い合わせください。



<https://kotokotosya.jp>



ことごと舎 kotokotosya

フリーダイヤル 0800-800-7651
TEL 0422-60-1555 FAX 0422-60-2200
hon@kotokotosya.jp
平日 AM9:00-PM6:00
定休日：土曜・日曜・祝日
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀1-12-17